

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

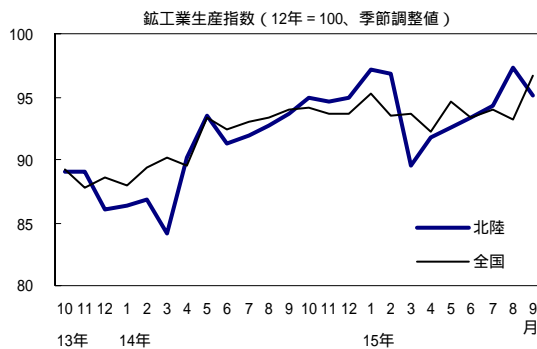
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
景況判断	緩やかな持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが続いている	
鉱工業生産	緩やかに減少	緩やかに増加	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、建設機械において新製品投入による輸出増がみられ、プレス機械や工作機械が自動車関連メーカー向けを中心に増加するなど、全体でも急増している。電子部品・デバイスは、パソコン向けが低調であるものの、デジタル家電向けや携帯電話向け等の半導体集積回路が増加している。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）や後発医薬品の生産等で基調としては緩やかに増加しているものの、一部生産ラインの停止で9月に一時的に水準を落としている。繊維は、非衣料品のカーシートやエアバッグ等の自動車内装材が堅調であるものの、衣料品は引き続き弱含んでいる。金属製品は、アルミ建材の住宅用がリフォーム案件等で堅調に推移しているものの、ビル用では首都圏の再開発工事向けが弱い動きとなっている。



（備考）平成 15 年 9 月の北陸は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

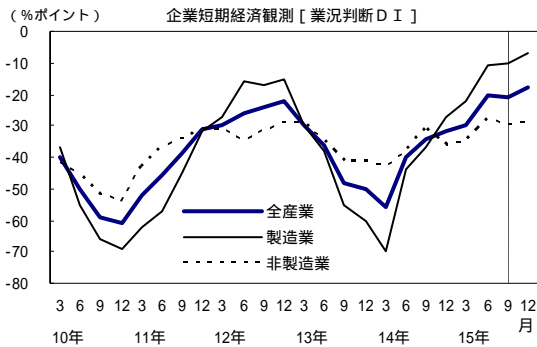
	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期		
一般機械	14.8	6.7	21.6	-	-	-	-
電子部品・デバイス	13.8	15.5	1.9	-	-	-	-
化学	12.7	0.2	5.0	-	-	-	-
繊維	12.4	1.2	0.4	-	-	-	-
金属製品	10.6	4.1	0.8	-	-	-	-
鉱工業	100.0	2.0	3.2	-	-	-	-

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

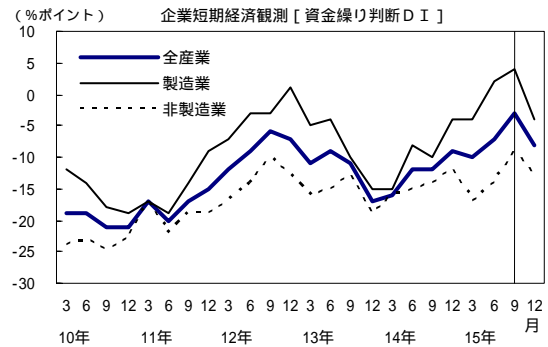
2. 7～9月期は速報値。

3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

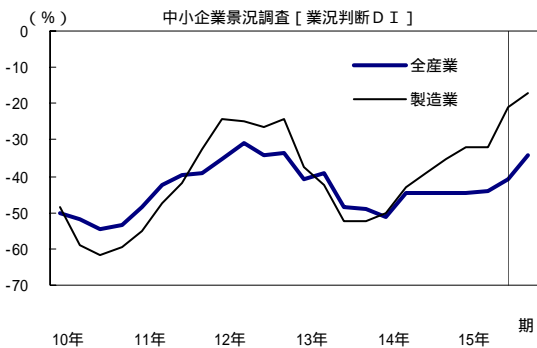
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。  
企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。  
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「物件のロットが極端に小さくなり、件数が増加している。価格的には非常に厳しい状況が続いている (プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

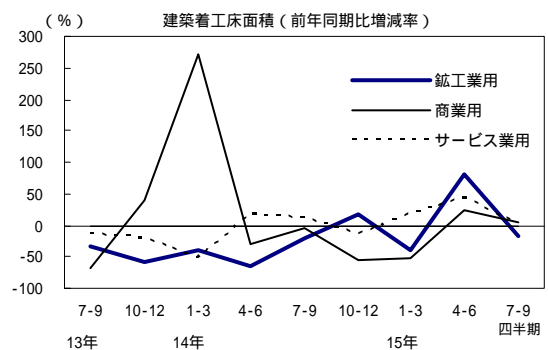
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (9月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	6.8	4.8 ( 4.0 )
製造業	13.2	11.0 ( 7.4 )
非製造業	15.9	8.2 ( 1.4 )

(備考) ( ) は前回 (6月) 調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

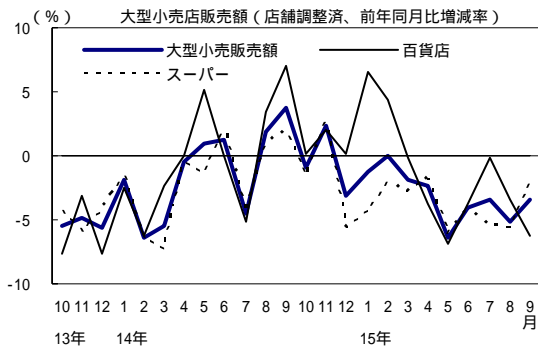
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月上旬の夏物セールが好調となるなど、7、8月と連続して衣料品が前年を上回ったものの、低温等の天候不順の影響により清涼飲料水が振るわなかったこと等から飲食料品は前年を下回った。9月は、一転して気温が高めの日が多く、秋物衣料全般が振るわなかった。飲食料品も引き続き前年を下回ったことから、全体では7か月連続して前年を下回って推移している。

スーパーは、飲食料品が9月に前年を上回るなど比較的堅調に推移したものの、期間を通じて主力の婦人服を中心に衣料品が振るわず、全体では10か月連続で前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

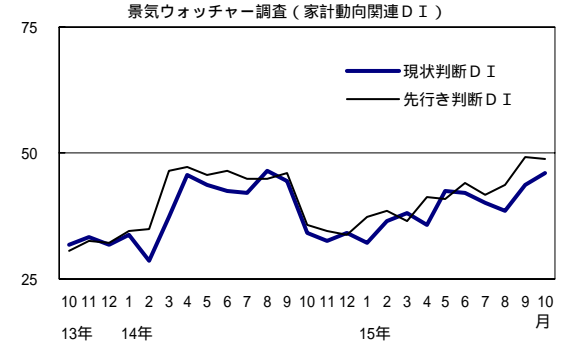
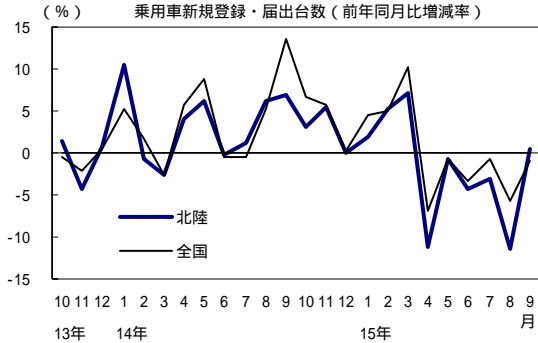
「客は欲しい物、価値のある物、例えばダイエットやサプリメントにはお金を使う。しかし、それ以外の生活必需品は価格で追いかけており、二極パターンとなっている(その他専門店[医薬品])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.8	1.1	4.3	4.0
百貨店	0.7	3.3	4.9	2.9
スーパー	1.8	3.2	4.1	4.5
乗用車	3.0	5.7	5.3	3.9
景気ウォッチャー	33.7	35.5	40.1	40.7

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。15年7-9月は速報値。

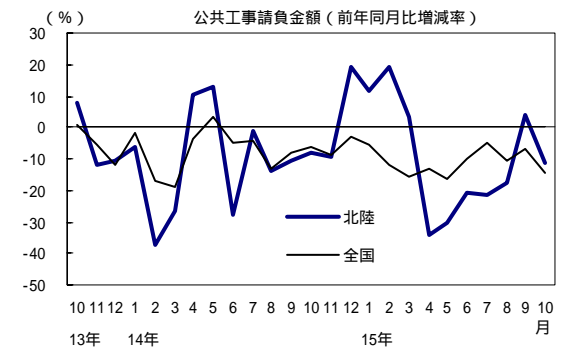
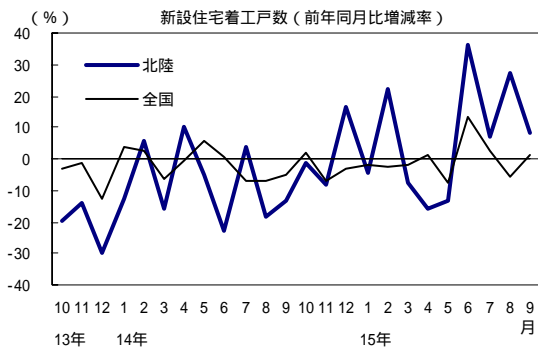
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家が前年を大きく上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

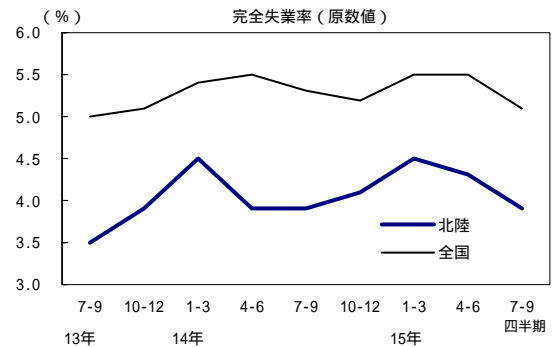
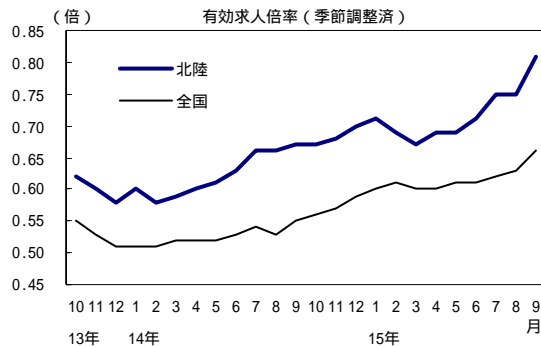


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「夏場は求人依頼数が増加したが、秋口に入り例年並みに戻っている(民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

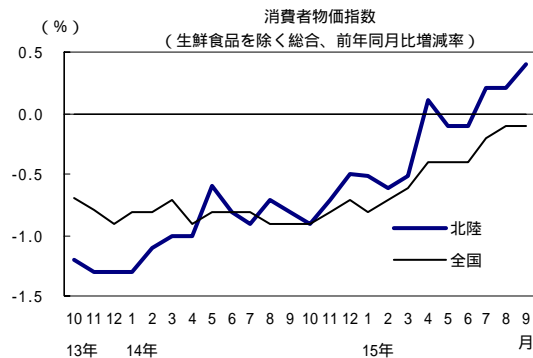
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

10月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	114	116	100	113	36
(前年比)	0.9	8.7	13.8	23.6	20.0
負債総額	317	350	202	468	177
(前年比)	77.9	23.6	38.3	27.8	70.1



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・客の慎重な購買行動は変わっていないが、季節にふさわしい天候になったこともあり、カシミア素材のウェアやロングブーツなど単価の高い商品が動き出した(百貨店)

<先行き>

- ・10月に名古屋で開催された工作機械関係の見本市では2年前に比べて来場者数、引き合い件数、客の様子などから積極的な動きが感じられた。特に客の目の色が違っていたのが印象深い(一般機械器具製造業)

